

経営比較分析表

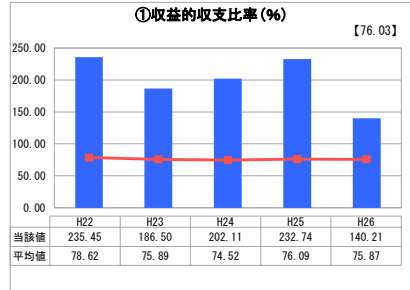
山形県 遊佐町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	24.47	5,181

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,892	208.39	71.46
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,621	19.60	184.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



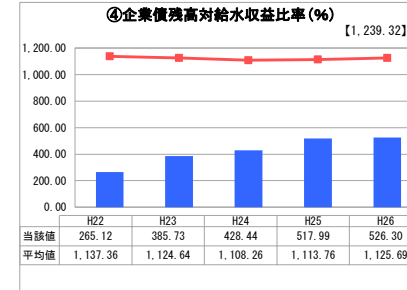
「単年度の収支」



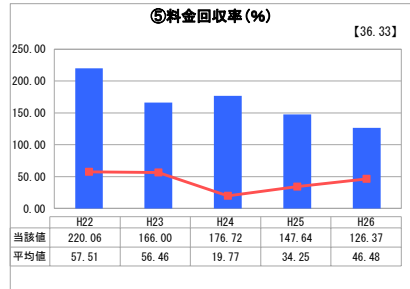
「累積欠損」



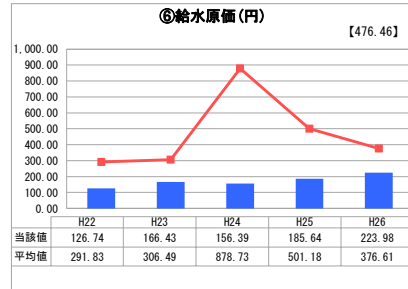
「支払能力」



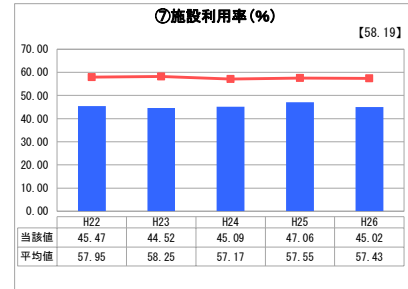
「債務残高」



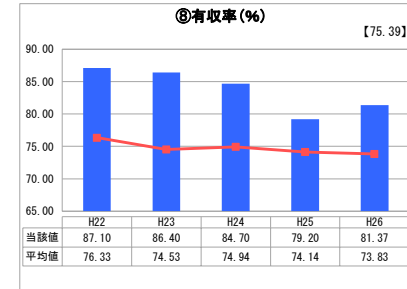
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

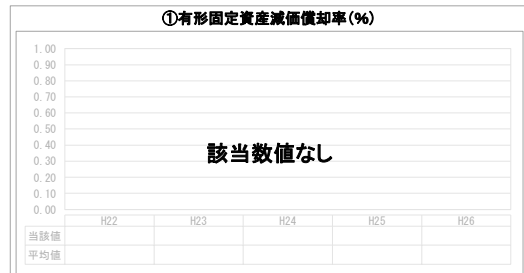


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

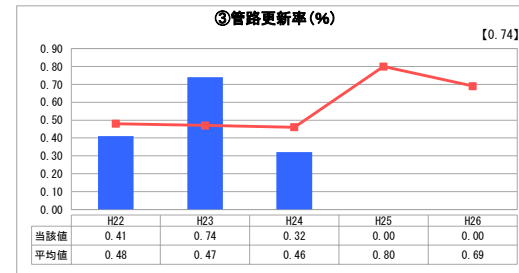
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

簡易水道区域の水道料金を上水道区域のものと同じ設定にしているため、経営収支比率、料金回収率は類似団体平均より高くなっています。企業債残高については平成22年度から統合簡易水道事業に向けて借入を行ってきたので年々増加していますが、それ以前の借入がほぼなかったため、債務残高は大きくありません。

施設利用率は低くなっています。夏季は観光や帰省により使用量が増え、ピーク時には配水池の性能いっぱいまで使用される日もあります。逆に冬の間だけ転出する人がいるなどで冬季は使用量が減少するため、年間平均としては低くなってしまいました。

有収率は類似団体と比較して高い値にはなっていますが減少傾向にあり、本管の漏水の調査をすると同時に、給水栓使用者への水栓管理啓発を行っていく必要があります。給水人口は減少傾向にあるため料金収入も減少傾向にあり、収支比率を黒字に保つためには経費を削減する必要があります。必要経費とのバランスを取りながら進めていかなければなりません。

2. 老朽化の状況について

給水区域が公共下水道・農業集落排水事業の区域とほぼ重なっており、同時に施工することで工事費を削減しつつ管路更新を行ってきました。管路に関しては耐震化も含め大半の区域で更新が済み、山中にある取水配水池から給水区域までの配水管が未更新になっています。これらは現在行っている統合簡易水道事業完了後に更新する予定です。平成25、26年度については機械設備の増設、更新を行ったため管路工事を行っていません。

機械設備については定期的にメンテナンス・オーバーホールを行っており、更新時期が一時期に集中しないよう調整しています。

全体総括

施設の効率性としては施設規模を夏季の観光施設利用などの需要に合わせて考えると、通年で低い値になるのはやむを得ないものと考えます。

平成29年度から上水道事業に統合され地方公営企業法の適用を受けるため指標値の計算方法が変わります。特に減価償却の概念が追加されるため全体的に費用に当たる部分が増加し、経営収支、料金回収率は100%程度まで減少すると推測しています。今後は経常費用の削減等を行い健全な経営に努めていく必要があります。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。